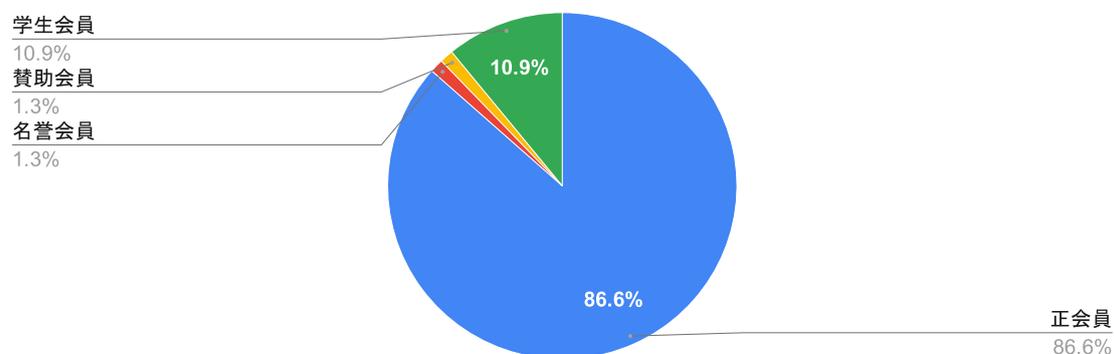
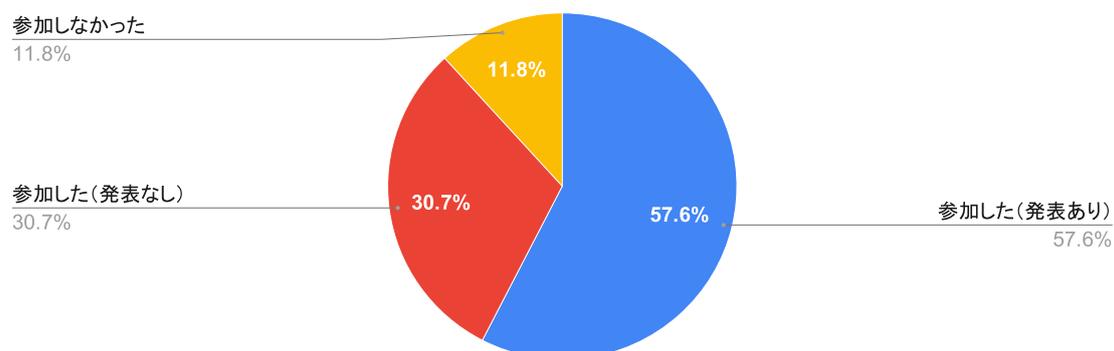


地震学会秋季大会に関するアンケート 回答

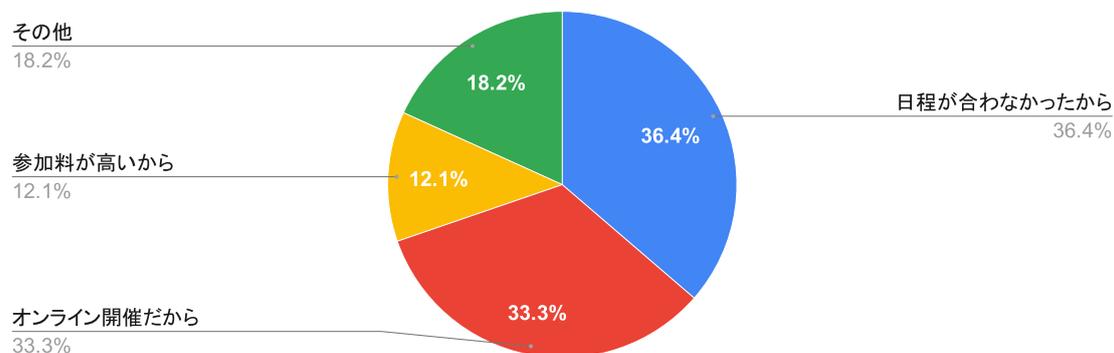
1. あなたの会員種別を教えてください



2. 2020 年度秋季大会（オンライン）に参加しましたか？



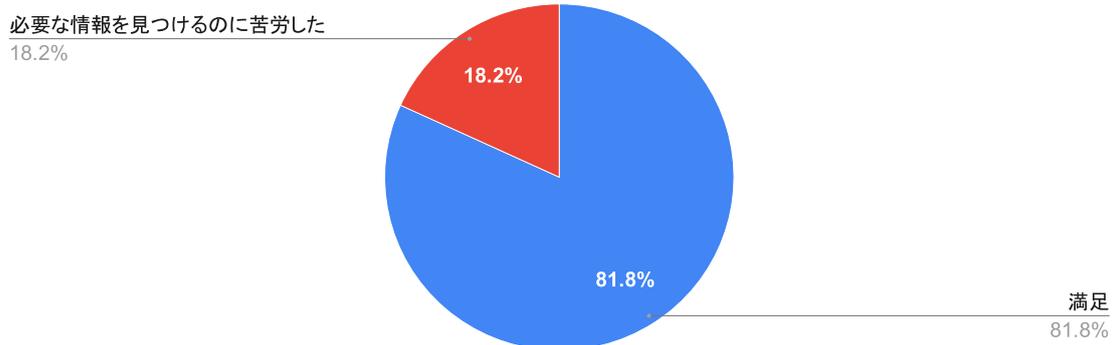
3. 項目 2 の質問で「参加しなかった」とお答えした方にお聞きします。参加されなかった理由をお答えください。（複数選択可）



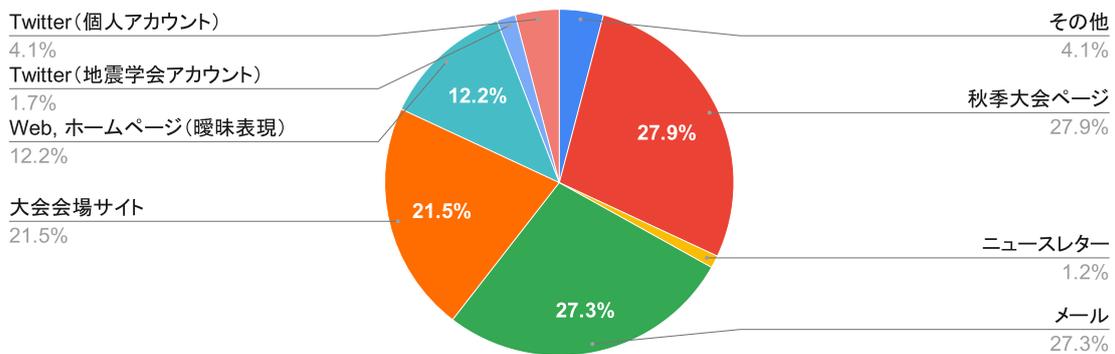
その他

- 私の職場では、学会で発表を行う場合にのみ、参加が認められており、聴講だけの参加は認められていないため。
- 準備が間に合わなかったから。
- 自身の発表がないため
- 現在、学会に関連する研究などを業務として行っていないから
- オンラインだと職場から参加する内規なので他の仕事をせざるを得ず、セッションが実質見聞きできない
- 学科長を務めていて、参加できる時間がほとんどなかったため、残念ながら参加できなかった。

4. 情報の出し方に関してお聞きします。秋季大会ページ、メール、ニュースレター、大会会場サイト、twitterを用いて情報を発信しましたが、必要な情報を得ることはできましたか？



4.1 もっとも役に立った情報源は何でしたか？

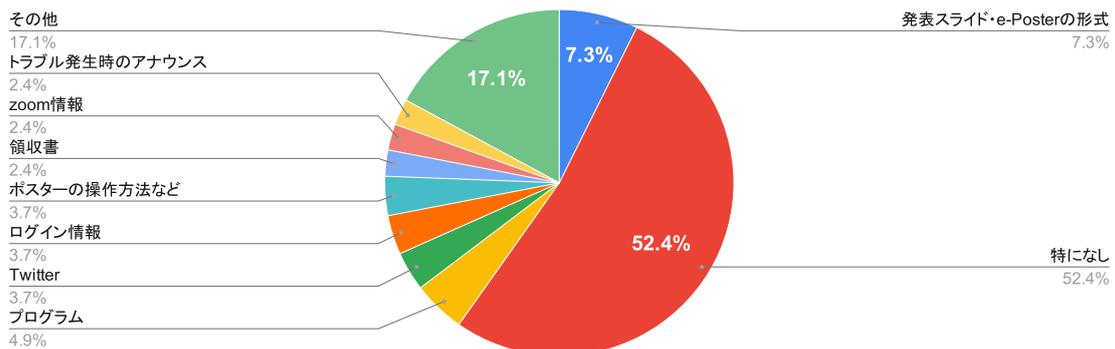


その他

- 近くにいる大会企画委員
- プログラム, 時間割
- 大学教授
- チャットでの質問、回答
- 口コミ
- オンライン説明会
- アクセス・参加方法の PDF

※グラフ中の「Web, ホームページ(曖昧表現)」は、大会会場サイト、秋季大会ページの判別ができなかったもの。

4.2 見つけられなかった情報は何でしたか？



その他

- どの URL にアクセスすると何が分かるのか
- どこでどの情報が公開されているか、どこまでパスワードなしで見えるか
- 会場に入る入口
- 発表論文の全会場の一覧表
- 大会会場サイト
- 「団体展示・交流スペース」の spatial chat
- 学生発表賞について、口頭でも対象になるのかについて
- url や id パスワードなど
- 座長講習会や接続練習の存在。spatial chat は最終日まで気づかなかった。
- 自分が共著の発表
- 発表資料作成の注意点(著作権など)に関する情報

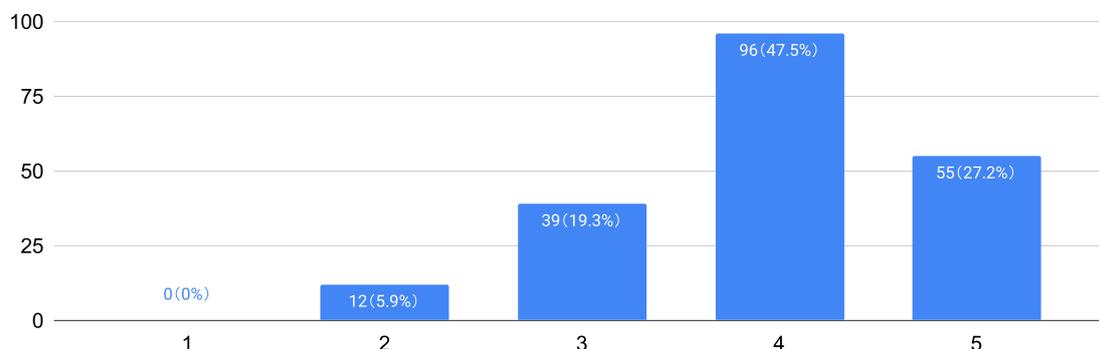
- 自分の講演のページへのリンク
- セッションが1コマに3つあったこと
- ZOOM での、別の資料を提示する急な操作法

5. 日程・プログラムに関してご意見があればお聞かせください。

- 特になし 17 件
- 問題なし 4 件
- 休日の開催は家庭との両立が難しくなるのでやめて欲しい
- オンライン学会で休日が日程に含まれるのは、家族の理解を得るのになかなか大変です。
- 対応要員の負担を考えると土日開催は避けてほしい
- 平日で完結するようにしてほしかった
- 土日は止めてください(オンラインの場合は特に家庭の事情が厳しいです)
- オンラインであれば週末にする必要がないのでは？
- 平日のみ開催を希望します
- 子供がいるので、土、日、祝日の開催は避けてほしい。どうしても開催ならば、休日保育料の支援をお願いしたい。
- 土日は止めて欲しいです
- 家庭の事情で、土曜日、日曜日は参加しづらい。
- 休日開催はアルバイトなどの関係で参加しにくいです(オンラインですと尚のこと)。ですので平日の開催を希望します。
- 土曜開催はやめてほしいです(家庭での役割との関係で)
- 土日休日はオンラインでも対応が難しいです。平日でお願いします。ポスターのコアタイムを長くするのもお願いします。
- 平日を希望
- 土日は負担が大きいです。同時刻帯に似た話題の発表が並ばないようにチェックしてください。
- まず日程は平日に限定してほしいです。大学教員に配慮しているのだと思いますが、一方で様々な家庭環境があり、土日はかなり忙しいご家庭も多いと思われます。また、web で一日中の会議はかなり疲労が激しいです。半日とか、例えば 10-15 時に限定するかわりに会場増やす、日程長くする、等の対応が必要ではないでしょうか。一定期間講演をオンデマンド視聴可(講演者の希望で視聴不可にも設定可)にできれば、日程問題もクリアしつつ、web 開催のメリットを最大限発揮できるのではないかと思います。
- オンライン開催の場合に、週末(休日)を含む日程にする必要があるか疑問

- 休日を重ねたことによって参加できた方がどの程度いらっしゃるかは把握された方が良いと思います。会期が休日に重ならない方が良いとお考えの方もいらっしゃると思いますので、(中高教員の方などの参加実績があったほうが)説得材料になると思います。
- 余裕のある日程でよかったと思います。
- 午後2の口頭発表の時間はもう15分延ばしてもよかったかと思う。
- Zoomであれば、もう1日増やして3会場にするなど、多くのセッションを見れる機会を作っても良いのではないか
- 最終日のポスター(コアタイム)開始時刻がやや遅かった(口頭発表との間に時間があつた)
- ポスターの掲載期間をもう少し長くしてほしい。
- ポスターの閲覧期間を長く設定してほしい。
- オンラインであれば、期間を長くして重複するセッションをなくしても良かった。
- 類似の研究発表の時間帯をずらしてほしい
- 重なる発表があるので、日程期間を延ばしてほしい
- 興味のある日程が被っていた
- 類似の講演が重なっていることがあつた。
- あまり長なくて良かったです
- 講演項目詳細が申込前に見れないため、真に知りたい情報の有無を確認することなく申し込まなくてはならない状態であり、不誠実であると感じた。
- 満足
- おおむね通常の学会を踏襲していたのでわかりやすかったです
- 日程・プログラムのPDFで、左右の時系列が見辛い。
- プログラムの表がわかりにくい。
- 参加者サイトのマイページで、視聴予定発表の時間順のソート機能があればよかった
- スケジュール機能をもっと充実させてほしい
- 1頁内での発表題名を見られる数を増やして、題名を選択し易くしてほしい。
- 大会1日目、2日目、3日目毎の印刷可能なPDFプログラムを重宝した
- 全体に特に不満はありませんでした。ポスターセッションのコアタイムの位置づけが少しわかりづらかったです。
- 最終日のポスターが午後最後になるのはやはりだらけるので、お昼の方が良い
- 審査セッションがおもしろかったが、ポスターのコアタイムがあまり機能していないように思つた。

6. zoom による口頭発表の満足度をお答えください。



6.1 その理由をお聞かせください。

【満足度 2】

- 従来は発表会場でも口頭発表に対する議論ができていたが今回は出来なかったから
- 地震学会の問題ではないが、リモートだと反応が見えないので暖簾に腕押し感がある
- 運営は問題ない。対面と比べれば、全体の様子が見えないということで2。
- 参加者の表情、反応が見えないのが残念な点です。
- あまり緊張感がなかった
- 発表者のトラブルが多い
- 発表者の設定？によってマイク音声小さいことがあったため、オーディオ設定についても、事務局で規定してほしい。
- 聴衆の温度感がわからない(学会が悪いわけではない)

【満足度 3】

- 時間約束を守るなかった session がありました。
- 良い意味でも悪い意味でも想定内だったので。
- 質疑応答はあまり活発でなかったように思います。Zoom のチャットや、ポスター同様に秋季大会サイトのコメント入力機能を積極的に活用してもよかったかもしれません。
- 発表に関しては例年通りの雰囲気だったと思います。
- タイムキーパーが不安定なセッションがあった
- 必要十分だったため、通常の口頭発表と比べて、メリットデメリットが同じくらいだった。
- 大きなトラブルは無かったが、聴衆の反応が見えないのは難しい
- 参加者が大変少なく、議論ができなかった
- 遠隔地からでも参加しやすい反面、聴衆の反応が分かりづらい点は否めない
- 利点も欠点もあるので、全体の満足度を問われてもあまり意味がありません。

- 活発な議論ができない(Webexと同様)。
- 聴講は問題ないが、発表後の議論が難しいため。
- zoomでの研究集会に慣れたので、特に可もなく、不可もなかった
- 運営側のせいではありませんが、接続に時間がかかったり、途切れたりしている。
- 聴衆の反応が分からない。講演後の Feedback が少ない
- 一部の方が Zoom を使いこなせておらず、質疑応答が成り立たなかったことがあった
- 仕方ないことですが、オンラインですと「学会に参加している」という臨場感に欠ける印象です。私自身が新しい学会発表のスタイルに慣れないといけないうことだと思えます。
- オンライン大会に慣れていないことと、質問がしづらいことです。
- スライドの図が PC 上でクリアに見えることができた。ただ、発表者によっては音声聞き取りにくい場合もあった。
- オンラインにしてはよいという程度

【満足度 4】

- 実際の会場でやるよりもスライドが良く見えて良かったが、議論の盛り上がりには欠けた。
- 自分の PC で手軽に発表が出来るのが良い。
- トラブル以外に問題はなかったと思うから
- 個々人の zoom ノウハウが蓄積したせいか、トラブルもほぼ無く、満足。
- 実際の会場での発表とそれほど違いが感じられなかったです。
- 特に問題はなかったため
- うまくできていた
- 聴講しただけですが、画質音質とも良好でした
- Zoom による口頭発表はスムーズでしたがいつもより質疑が少なめなのと、発表後の議論が不足していた。口頭発表でも積極的にコメント欄を活用するべきかと思いました。
- 発表は通常通りスライドを用いて行えて、発表直後に質疑応答が可能だから、一方で発表後の質疑応答の時間以外では議論が難しいため満足度4とした。
- 原稿読み上げによる時間配分が可能、緊張しない。
- どの程度発表内容が相手に伝わっているのかなどを感じ取ることができないため、対面に比べて物足りなさがあった
- 参加したセッションは問題なく視聴できた。致し方ないが、視聴者の反応がわからないので発表の際は不安になる面もある。
- 司会と管理者の進行はスムーズだった
- 接続が安定していた。

- 自宅、職場から気軽に聴講できる
- 大学院の授業で使用していたため使いやすかった
- 会場の移動が容易だった、口頭発表でも HP に質問ができるアナウンスが遅く気がつかなかった
- 発表 PPT がよく見え、説明もクリアに聞こえたため
- 発表者がよく準備されていて、時間超過などもなかったのがよかったです
- ほぼ支障なく参加でき、質問も問題なくできたから。
- 場所間の移動も容易で次回からは現地会場の必要を感じないほどだった。
- トラブルなく聴講できたから
- 特に問題が無く、進行もスムーズだった
- 使い慣れていたので
- 参加したセッションではトラブルなく進んだ
- 発表資料が見やすい。口頭会場間の移動が楽。
- 対面の口頭発表と同等であった。
- 現地開催よりスライドが見やすい。立ち見も無いので落ち着いて見れる。
- 総じてスムーズだったと思います。
- 何件か、聞き取りにくい場合があった。
- スライドが会場で見るときれいにみられるから。
- 聞き手の反応が分かりづらい
- 資料が見やすい。声が聞き取りやすい。
- 質疑回答が文字として残るため、これまでの口頭質疑では聞き取れないような内容も確認することが出来た。
- 【(リアルより)よかった点】次の時間帯に聴きたい講演が別会場でも、会場間の移動が瞬時にできる。しかも、ブラウザ版なら、複数会場を並行して流せる(一部の会場をミュートすることもできる)ので、講演の進行具合を見ながら、会場移動ができる。／リアル会場では、会場が満席立ち見になって、聴きたい講演を聴けないこともあるが、その心配が無い。／コメント機能を使って、質疑の続きができる。
- 【不満な点】時折、音声途切れたりすることがあった(こちら側の環境に原因がある場合もあり)。発表者 PC の接続トラブルも散見されたが、リアル会場でも時々発生するので、オンラインだから特に問題だということはないと思う。
- それぞれの会場に進行担当の方が何人かずつ担当され、トラブルもなく運営されていた。オンラインであれば、部屋を移動しなくても、別の会場にすぐ移動することができる。

- 運営面については、会場の管理や time keeping など十分準備されていて、不便は感じなかった。一方で、発表者側の問題(zoom の操作に不慣れ)でいつもの発表ができないところに不満を感じた。
- トラブルもほとんどなく、質疑応答も予想以上に活発に行われていた。
- 質疑がいまいち活発になっていなかった感じがするので5ではなく4。
- 座長の仕切り方が上手だった
- 発表に際して大きなトラブルがなく、聴く側として不便な点は感じられなかったから、発表する側としては、対面での発表よりも反応が見えづらいという点が気にかかったが、それ以外では不便さを感じなかった
- 概ね通常の口頭発表に近い感覚で聴講でき、大きなトラブルも発生しなかった。移動を伴わないので、体力的に楽だった。
- 大きなトラブル無く発表を聴くことができた
- 概ね聞こえたこと、発表資料を間近に見ることができたこと
- トラブルもなく順調に運営されていたから
- きちんとできたから。
- 会場間の移動時間を計算しなくてよいため、会場を横断して聞きたい発表をスケジュールできた。
- スムーズに進行し、画質も良かった。
- 特にトラブルがなかったため
- 円滑に進み、特にストレスがなかったからです。
- スムーズに発表できた
- 共有設定・解除作業などの手間があったが、発表は滞りなくできた。質疑応答やコメント等は、思いついたときに書き留められるチャット機能を使ってもよかったのではないかと思う。口頭発表時間中に全部にこたえる必要もないが、後でやり取りが可能になるので、より議論が進むと思う。
- zoom による発表にも慣れてきたため。
- スムーズに発表の行き来ができた
- 会場の移動しなくても、セッションを色々移ることができるのは、大変、便利。
- 何度か接続トラブルに遭遇したが、概ね安定していたため。
- 参加者が多くってフィードバックがよかった
- 普段の学会と同程度の体験ができた。
- 聞く側としては特に支障はなかった
- 図が見やすい

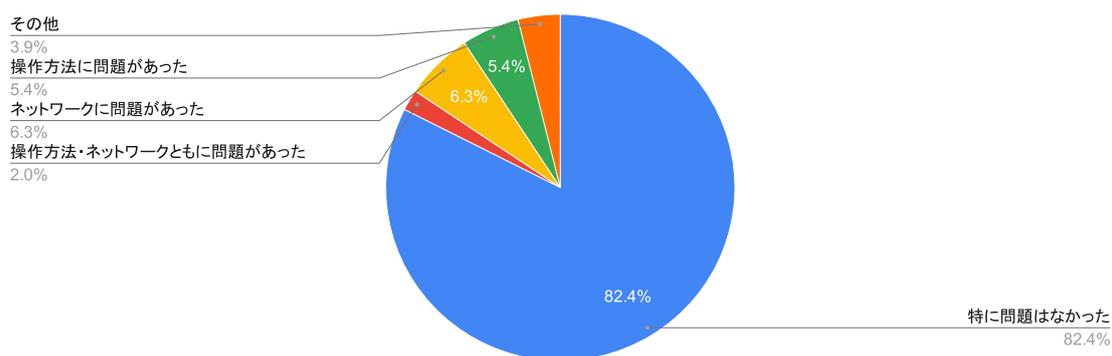
- 比較的スムーズで、質疑も遜色ない程度だった。
- ・参加者が多い時間帯に発表できた。・12分で言いたい事だけは言えた。

【満足度 5】

- 特に大きな問題はなかった。
- 特にトラブルなくスムーズに行われていたから
- 講演プログラムがわかりやすく、zoom へのリンクもスムーズだった
- 会社および学会担当者(会場係)のサポートが十分あった
- スライドが見やすい。
- 時間も十分でトラブルも少なかったと思う。
- zoom meeting という使い慣れたツールが採用されていたから
- 画面も見やすく、全く問題がなかったです。
- リアル会場と異なり、遠くてスクリーンが見えなかったり、音声(特に質問者の声)が聞こえない、ということがなかった。
- 大きなトラブルはなく、進行がスムーズだった。自分の発表にも通常の学会よりリラックスして臨めた。発表スライドを自分の PC で見れるので、より多くの情報が得られた。
- 図がよく見える
- オンサイトのように普通にできたと思います。
- 問題なく発表を聞くことが出来たため
- 気軽に参加(退室)できる点
- 問題なく視聴できた
- 音声、スライドが明瞭;複数デバイスで異なる会場の発表を同時視聴できた
- 通常の学会発表と遜色無かった
- 発表スライドと口頭説明を集中してクリアに視聴することができた。通常の講演会場ではスライドが遠くて読み取りにくいことが多いので、それに比べると大変よかった。
- 資料を見ながら質問・回答できるので、会場に集まって行うよりも適切に質問・返答できる。また、出典を即座に確認することができる点が良い。また自分が誤解していた点が直ちに理解できたことは、良かったと思います。
- 特に不自由なく進んだため。
- ほとんどトラブルなく終わり、進行もスムーズだったため
- 問題が生じなかったから
- 事前録画の使用が可だったので、発表時の時間管理に気をつかうことなく発表できた。質疑もスムーズだった。

- 通常開催時よりも、発表内容がはっきりと聞き取れた。
- 特にトラブルがなかったため
- 大きなトラブルは無かったと思いますし、サポート体制もしっかりしていました。
- パワポがよく見える
- 別会場への移動がスムーズにできた
- ほとんどトラブルもなく質疑応答も円滑だった。
- 会場で実施するのと大差ない
- 半年以上たったので Zoom に慣れた人が多かったのではないのでしょうか。
- オンラインだったためか、口頭発表ではたくさんの方が聞いてくれたように思います。
- 既に操作に慣れていたので。
- 会場ではスクリーンが見えないことも多いけれど、画面なら細かいところまで見られて発表内容がよく分かった。
- 狭い部屋の後ろの方でみるよりも、画面の方がはるかに楽にしっかりきけた。また、部屋の移動をせずとも違うセッションに移動できるのも zoom の良さであったと思う。オンライン学会は、正直とても最高だった。アフターコロナでも JpGU のように、オンサイトを短くして、オンライン学会の部分を増やした方が良いと思う。働き方改革にもつながると思う。
- 聞きたい発表が別セッションにあっても簡単に移動できる
- 特に問題がなかったため

6.2 zoom による口頭発表時もしくは視聴時にトラブルはありましたか？

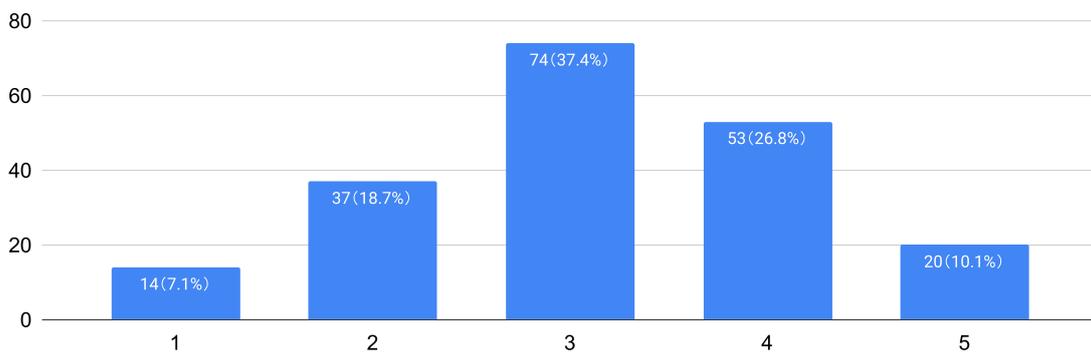


その他

- 声が極端に小さくて聞き取れない発表があった
- 私個人は問題なかったが、トラブルは散見されました。
- こちらの回線の問題(と思われる)で、画面がフリーズした。
- 発言者毎の音量・音質の差が顕著であった。

- 発表者によっては、発表中に経過時間を示す時計が見れないトラブルがあった。
- 操作がまずかったせいか制限があったためか自分の映像を出せなかった点が残念
- 発表者の背景の交通ノイズが大きい時があり、聞き取りにくい時があった。発表者がワイヤレスイヤホン接続断回避のために流している音楽が大音量だった。
- 自身の発表時に経過時間が見えにくかった。

7. コメント機能を使ったポスター発表に関して満足度をお答えください



7.1 その理由をお聞かせください。

【満足度 1】

- コメントがないと研究の価値がない印象を与える作りであったため、不要なコメントが投稿されているケースがあった。研究内容の議論ではなく、自己宣伝ツールとして使われている例があった。議論に参加していない人もコメントが丸見えな状態であり、事前に希望をとらずに一概にオープンサイエンスにすれば良いというものではない。このしくみになることも事前に周知されていなかった。大会企画委員会として安易な選択をしたことについて反省して欲しい。iPosterのようにコメントに関しても個人情報保護の考えに基づくべき。
- オンラインでのポスター発表は、意見交換等がまともに行えず、ほぼ成り立っていないと感じた。コメント欄でのやりとりは効果が非常に小さいと感じる。
- 会話にならない。相手が見るかどうかわからない。
- 気軽には聞けない
- Poster 発表は Live での発表者との濃密な対面質疑応答を暗黙に期待してた自分に気づいた。コメント機能では代替できないことに今回の試みで気づいた
- 議論が盛り上がらない
- 発表者とのアクセスが悪いと思う

- 画面上でポスターの細部を拡大表示出来ないのも、特に細かい文字・図表で作られたポスターは内容を読み取れず、不満でした。
- 議論が盛り上がらなかった
- 質問とその応答方法の手順が分かりにくい
- faec to face であれば当然の、zapping 中を通りがかったポスターがおもしろそうで解説を聞いてみる、というような楽しみがまったくない。online journal の論文を決め打ちで読みに行くような感じでおもしろみがない。
- もっと自由に参加したかったです。通常のポスター会場のように、まず全体をざっと見渡して注目すべき発表が選択できれば良かったと思います。
- ポスター発表の意味がほぼないため。ポスター発表は、研究に対して皆さんの生の意見がもらえる会話の場だと理解しており、PDF を公開して掲示板コメントするだけでは意味がない。
- 議論が難しい。

【満足度 2】

- 氏名が明示されるので、コメントが書きにくい(と思う)。
- 気軽な質問ができにくい堅苦しい感じがあった。もう少しゆるい感じのチャット形式でも良いように思う。
- テキストだけは限界があります。審査セッションが助かりました
- リアルタイムのチャットではないので、あとで回答を確認しに行くのが面倒。
- 知っている方のみしかコンタクトを取れないという感じがするため
- コミュニケーションにタイムラグがありすぎる
- コメントのやりとりの手間が通常ポスターよりも面倒だと感じた。御礼を言うためだけに、改めてコメントを投稿するのは若干手間。
- 今の所、平時の学会ポスター発表ほど深く議論ができるプラットフォームではない
- 文字入力だと意思疎通に時間がかかる。
- まずは今回の大会を準備して下さった皆さんに深く感謝いたします。そのうえで私の印象なのですが、今回は文章で質問するという面で質疑に入るハードルがいくらか上がるように思われました。これは、対面のポスター発表では発表者による口頭の説明を聞きながら質問を挟んでいくことが多いのですが、今回のようなスタイルだとまずポスター全体をよく読んで内容を理解してから質問することになるという事情のためです。また、コメントが少ないポスター発表もあり、発表者がポスターのインパクトを把握しにくいかもしれないとも思われました。(今回の大会に限らず)全般にオンラインのポスター発表についてはさらに工夫が必要かと

思われます。ポスターに音声の説明を追加できるようにするのも一つの方法かもしれないと思われます。また(私はポスター発表がなかったので分からないのですが)、質問はなくても、音声やポスターの閲覧数・視聴数が分かると発表者にもインパクトを知る手がかりになるかもしれません。

- コメントが少なかったのと、文字入力だとどうしても返信に時間がかかってしまうため
- 聴衆とのコミュニケーション手段がコメントだけでは物足りなかった
- 遠慮しがちでポジティブなコメント以外しづらかったのじゃないかと思う。件数も少ない
- チャットのみで、活発な議論ができない。
- コメント対応をコアタイム内で完結させようとする、その対応だけで終わってしまう。
- 自分の質問にいつ回答がもらえるのか読めない。テキストベースなので、書き込むのに時間が必要。良い点は、対面のポスターだと、発表者がずっと特定の人と話をつづけている場合、待っている必要があるが、そのような必要はないところ。
- テキストベースでは議論するのに限界があるから。
- 口頭発表よりインタラクティブに議論できるのがポスター発表であるはずなのに、全員に公開されてしまうと、質問しづらいので、何らかの改善が必要である。一方で、コメントが公開されていた方が同じ質問をしなくて良いと言う人もいるので、コメント時に公開かプライベートか、選択できると良い。
- 運営は問題ない。対面と比べれば、全体の様子が見えないということで2。
- 対面での発表と比べると、発表者とのやり取りが、やはりやりにくい。
- やはり現場の討論には程遠い状況なので、online の限界があると思います。あるいはもっと質疑応答の時間、期間を長くすることも考えられるのではないのでしょうか。
- 議論ではなく質疑で終わった
- コメントした人の名前が見えたり、消えたり。バグがあったように思う。
- 直接の会話ができないとディスカッションはしづらかった。
- 質疑応答を文字でやり取るのは、ちょっとまどろっこしい。
- 質疑がやりにく
- ポスター発表なのでチャット以外に口頭での議論はあっても良かったのでは、と思います。
- チャットのみだけだと質疑応答のやり取りがスムーズにできなかった。リアルタイムで応答できる時間があるとなお良かったと思う。
- 情報は探しにくくあまり参加する気がしなかった

【満足度 3】

- 対面と違って受け身でしか議論をできなかった。こちらから話しかけることができなかった。

- コメント機能があるのは良かったが、そのコメントが後に残らないのが残念。
- ポスター発表を見ていないから
- ポスター発表に関しては聴講およびコメントしづらい部分がありました。オンライン化にともないポスター形式に関してはさらに改善の余地があるかもしれません。たとえば、オンデマンドで音声付きのスライドをアップロードするなど、次のスタイルとして考えていくのも良いかもしれません。
- まずは発表自体が問題なくできたことは大きな成果である。またコメント機能を用いることで、有意義な議論ができていた。他方で、ポスター発表としてのメリットはあまり感じられなかったのも事実である（研究に関する深い話をあまり時間を気にせずにできることや、互いに会話することによる新たなアイデアの創発など）。単にポスターを貼っておくなら口頭発表の方がよいと思ってしまったのは事実。
- 効率よく内容を理解するために、ポスター発表でも発表者の説明を聞きたい。
- コメント機能で議論されれば発表の代替として機能するかもしれないが、それがいない場合ポスター発表者に議論の機会が生まれにくいから。
- PDF をみるだけで、コメント機能は使用しなかったため
- ポスター会場は混雑して見づらかったり、遠くて見えないことがあるが、オンラインではこれがなく、見やすかった。
- コメントがすべて公開なので、質問しにくいこともあった。質問した際は頻繁にコメント欄をチェックする必要があり、手間を感じた。
- 同時性が担保されなかった、議論は少なく質疑のみだった
- 参加(利用)していない。
- ポスターの閲覧者数、閲覧者名が分かると良いと思います。
- コメントでの議論は知っている研究者とは行いやすいが、面識のない研究者だと、ややハードルの高さを感じます
- コメントおよび回答を行うのに支障はなかったが、コメントをもらった方以外の方々とコミュニケーションをとれなかったから。
- 資料を見ながら質問・回答できるので、会場に集まって行うよりも適切に質問・返答できる。また、出典を即座に確認することができる点が良い。また自分が誤解していた点が直ちに理解できたことは、良かったと思います。
半面、ポスター発表者が他の人の発表を気楽に聞けないので（そのように私を感じただけかもしれませんが）、その点では改善の余地があると感じました。
- 文字を打つとなると、気軽さが減る。人によっては手紙のやりとりのようになっている人もいた。

- 普通
- コメントしても、返信があったかどうかは、また見に行かないと分からない
- 質問機能は気軽に質問しやすく、他の人の質問も見えるので重複質問も避けられてよいと思います。ただ、ポスター自体の形式が、発表者によってまちまちであり、少し見にくいと感じました。できれば、1枚のポスターファイルとなるように、形式を統一できれば、見やすいのではないかと思います。
- 自分へ来たコメントは通知で分かったが、自分がしたコメントに対する返事があったかどうかの確認が面倒だった。拡大がしにくかった。
- イネやコメントをくれた人は分かるが、その他はどういう人が見たかが分からないので、ポスターへの反響がよくわからない。足跡機能などがあればいい。
- オンラインではポスター発表の良さ(いろいろな話ができる)がうまく実現できない
- 周りの視線を感じないで、じっくり拝見できた点はよかったが、発表者とのコミュニケーションは取り辛かった。
- 発表者と聴講者の時間が合わなくてもコミュニケーションを取ることができるという点では良いのですが、リアルタイムのやりとりができない点は不満でした(実現は難しいと思いますが)
- コメント方法、場所がわかりにくかった
- 特になし
- 遠隔地からでも参加しやすい反面、聴衆の反応が分かりづらい点は否めない
- 発表者と他の参加者との議論も見られる点は面白く為になった点は良かった。やり取りがメールでのやり取りに近く、時間にとらわれないことは良かったが、逆に回答がいつ来るかわからない、回答を見てもらっているかわからないという問題があった。
- 気軽に質問ができるのでよいと思いました。
- 基本的に有意義な議論がなされていたと感じる一方で、コメントが全ての参加者の目に触れるため、気軽に質問できない雰囲気があった。
- やり取り内容がいつでも確認できるのは良かった。
- コメントが見られる期間が限定的なのが残念。
- 参加していない
- 双方向的な議論は、コメントのやり取りより直接的な対話の方が効果的である。一方で、コアタイムの前後でもポスターに目を通しコメントを読み書きできる点は良かった。
- 質問はできるが議論はできない感じでした。コアタイム以外の時間帯にもコメントしてよいということが伝わっていなかったように思います。
- 普通によかった

- あまり参加しなかった。
- やはり対面の方が議論を交わしやすいと感じたからです。
- 特にコメントなかったの。
- コメントを書き込んでも、反応がいつ来るか分からないので、質問をしたポスターのコメント欄を定期的にチェックする必要があるのが少し煩わしかったです。
- 予稿を見ると、コメント・いいねする画面が同じなら、より使いやすかったと思います
- 返答の仕方など考える必要があったのと、もう少しラフな感じでやれる場が欲しかった
- ポスターは理解しにくい

【満足度 4】

- 他の人と同じ質問をしなくて済む。
- 多くのコメントがある発表では、コメントへの返信が見辛くなっていた。質問への返信をツリー状に表示することができればより良かった。
- 想像以上に活発に質疑が行われていた。希望者にはポスターPDFを配布する機能があると良い(学会でポスターの縮小版を希望者に配るような感覚)
- 個人的にあまり活用できなかったが非常に良かったと思います。
- そんなに不満はなかった。
- コメント機能によって、それなりの議論ができたように思います。
- ポスター制作の自由度が高すぎて少々迷いました。2枚以上作れるのは良いと思います。
- 限られた内容ではあったが、質問等のやりとりをすることができた
- コメントがあるとメールが届くなど工夫されていた。
- 会場にいなくても、すべてのコメントのやり取りを確認することができる。
- 特になし
- 質問が具体的にチャットでできた
- それなりに盛り上がったので。
- 対面の発表よりもやり取りが不活発になってしまうが、オンライン発表としてはこの形態が良いと思う。
- 質問者以外も討論を参照できること
- 少しはやりとりができたので。
- ある程度時間の融通が利く
- 【(リアルより)よかった点】コアタイム中、自分のポスター前に張り付く必要がなく、他の人のポスターを見たり、質問したりする時間がたっぷりとれた。／人気のポスターに観客鈴なりで、肝心のポスターが見えない、ということがない。確実に質問できる。

【物足りない点】コメントを残してくれた人以外、誰がポスターを見てくれたのか(見てくれないのか)がわからない。／全体をざっと見るには、リアルの方が適している。／ポスター提出後切後に発見した書き間違いを修正できず、コメント欄を利用して、修正をお知らせした(当然、そうあるべきだが、リアルだと、貼ったポスターを手書きで修正したりできるの(…))。

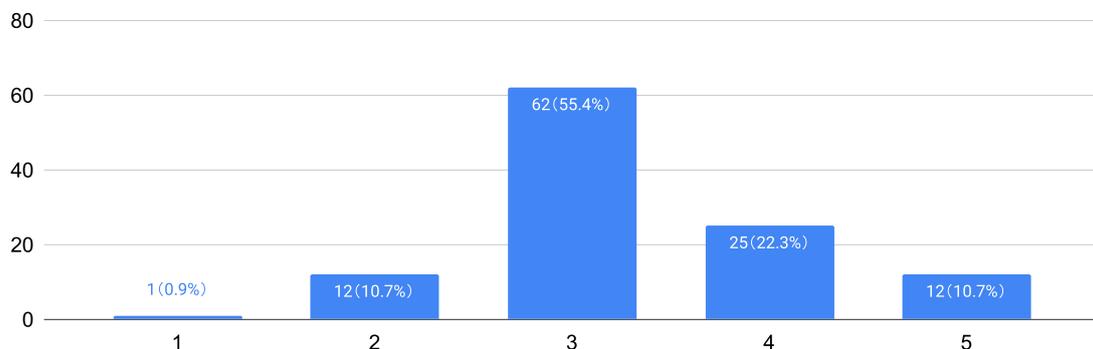
- コメント機能によって、研究者間のコミュニケーションが取れたことがよかった。
- 他の方の質問と回答が、後からでも見る事が出来る
- ポスター発表で観客が少人数であれば、密度の濃い議論ができる。
- ポスター発表してコメントをいただけて概ね満足している。ただコメントへの返答を確認するのに自分で更新しなければならないためか、返答しても議論が発展することは少なかった。コメントに返答があると通知が来るような機能があるとより議論はしやすくなると思われる。
- スムーズにやり取りできた
- かなり活発にやりとりがあり面白かった。質問への返答があった時に通知する機能がないので返答が来たか何度も確認するのが面倒だった。
- コメントの方が議論しやすいと感じた
- フリーフォーマットに近く、十分な情報が記載されているものが多かったから
- 文字に変換すると、考えが整理されるメリットがあります。一方で、口頭でのやり取りに比べてリアルタイム性が失われ、それがやや満足感が減った原因かもしれません。
- ポスターにコメントが気楽に入れられるようになっていて大変良かった。
- 有益な質疑応答ができた。ただ、コメントチェックの遅い発表者が居て、回答をもらえなかったものもあった。
- 基本的に閲覧だけであったが、学会期間中は見られるのは良かった。コメント機能で質疑応答が盛んなものもあり、今後の参考になった。
- 実際のポスターよりも見たいものをゆっくり見て質問ができた。
- リアルポスターでは可能な発表者から声をかける行為はできず、一方的にコメントを待つしかない。ただ、与えられた条件の中では十分に満足できました。
- ライブ感はないが、一方で任意の時間に質疑応答ができる利点があった。
- コメント受け取り時にメール通知があったのがよかった

【満足度 5】

- それまでになされていた議論を後から来ても参照することができ便利だったため。
- 思っていたよりもちゃんとできたこと。強いて不満をあげると、コメントへの返事がついたかを確認しないとイケないので、スムーズな議論は難しいと感じたこと。

- 混雑などを気にせずに関覧できる点がよかった
- 同様な質疑応答を繰り返さずに済む。
- 発表者が不在でもコメントを残せる。
- 特に問題なかった
- 過去の質問や返答の履歴を読むことができるのが一番大きいと思う。
- 普段よりじっくりポスターを見れました。コメント機能は、何度か行っていくにつれて、もっと有効に機能していくように思いました。
- 質問内容を明確に把握することができた
- 長時間ポスターを見ることができるのはよいです。書式がばらばらだったのですがそれも個性化と思います。
- 質問者・解答者側共に、よくポスターを読み込んで質問 & 準備をして解答できるため、口頭よりも深い議論が出来たように感じた。

8. Webex による口頭発表(セッション S22、それ以外は中継)に関して満足度をお答えください。



8.1 その理由をお聞かせください。

【満足度 1】

- 技術的問題が zoom より多かったです。

【満足度 2】

- 混雑緩和には有効と思いますが、スライドの解像度が低かった。
- Zoom と比べると解像度が悪く感じた。
- 口頭発表では Zoom は画像が繊細でクリアでした。一方 Webex は画像の解像度がかなり低下しており、スライドの文字なども判読しにくい場合が多々ありました。そうなった理由は分

かりません。ただし、Webex のみであった特別セッション(琉球弧のジオダイナミクス)では、画像は鮮明に表示されて、スライドの読み取りにも全く問題はありませんでした。

- 使い慣れていなかったから
- webox は画質が悪い。
- 初日か二日目に音声が入らないことがありました。それ以降は zoom に乗り換えたので、Webex の問題についてはわかりません。
- 事前説明はあったが画像が悪く、途中で固まることが多々あった。
- 管理者の目が行き届いておらず画面が荒かったり、マイクオフが徹底されていなかったりしていました。中継が本当に必要なのかは再考が必要かと思います。

【満足度 3】

- 参加しなかったのわからない。
- 見ていないから
- ファイルを共有するのが大変そうな発表がありました。
- 利用していない
- 台湾のセッションで一瞬参加しただけなので判断できない。
- 挙手のボタンが分かりにくいなど、操作性がいまいちだった
- 特に問題はなかった。
- 特になし
- 特に問題なかった
- 中継を見たが、大きな問題はなかった。ただし、若干画質に難のある中継もあった。
- 使用していない
- 該当セッションには参加しなかった。
- 未利用
- 参加していない
- 活発な議論ができない(Zoom と同様)。
- 未参加
- ほとんど利用しなかったの、判断できません。
- 参加していない
- 利用しませんでした。
- 普通に利用した
- Webex を利用していない
- 参加しなかった。

- 視聴時にトラブルがあったためです。
- ファイル共有ができない方がいた
- 使用していない。
- 使っていない
- 見ていないので不明
- Zoomの方が便利

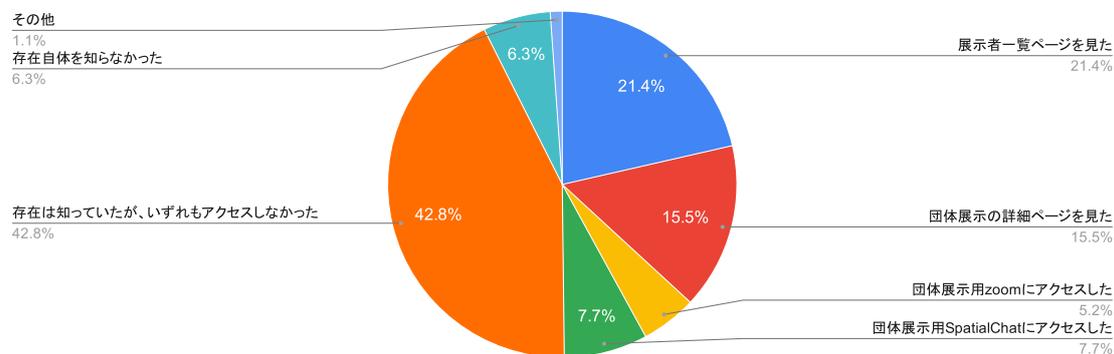
【満足度 4】

- zoom が使えないので有り難かった。
- S22 は概ね問題なかった。他は ZOOM で参加したのでよく分からない。
- 特に問題はありませんでした
- zoom よりも少し重い印象だったため
- 特に問題がなかった
- 通常の大会会場の座席位置によって見え方や聞こえ方が異なるといった問題がなく、誰でも手元の画面で同じように見ることが出来るので、講演のように一方向的な発表の場合は満足度が高いと感じます。
- それぞれの会場に進行担当の方が何人かずつ担当され、トラブルもなく運営されていた。オンラインであれば、部屋を移動しなくても、別の会場にすぐ移動することができる。
- S22 の司会がよかった
- zoom と同じかと思いきや挙手ボタンなどが少し探しにくかった。個人的な事前練習不足です。
- 時々音声途切れることがあったのが残念だった。
- zoom か webex どちらかに統一した方が使いやすく良いかと思いました。
台湾の方が Zoom が使えないなど事情があるならば、全部 Webex でもよかったのではないかと思います。
- 質問ができない以外は良かった。zoom でつながらない時にこちらが繋がって良かった面があった。
- 聞く側としては特に支障がなかった

【満足度 5】

- 他セッションと同様に不便はなかった。
- 音声、スライドが明瞭；複数デバイスで異なる会場の発表を同時視聴できた
- 既に操作に慣れていたので。

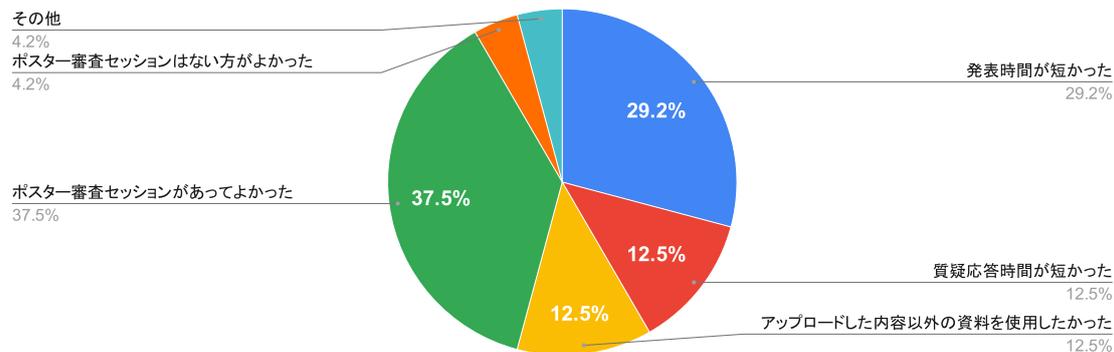
9. 団体展示はご覧になりましたか？（複数選択可）



その他

- 一部のみ、少し見ただけです。
- ツイッターで宣伝されているのを見た
- 見るだけの気持ちの余裕がなかったので無回答。

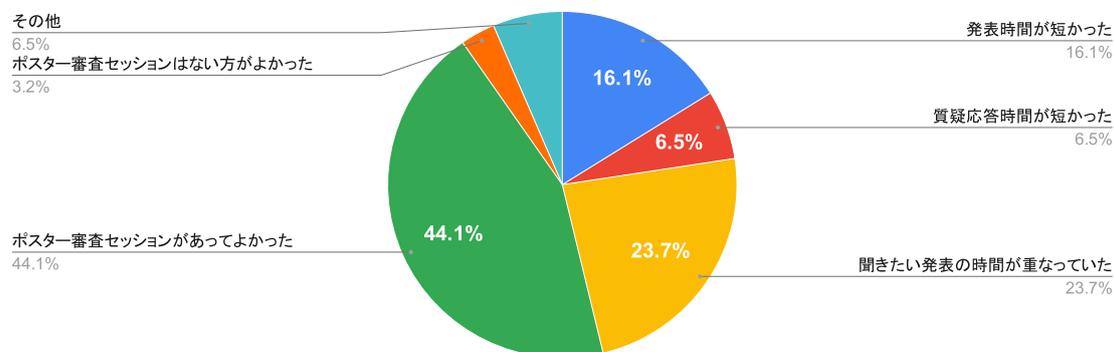
10. zoom を使用した学生優秀発表賞のポスター審査セッションで発表された方にお聞きします。（複数選択可）



その他

- 時間は寛容という言葉の意味がいまいち汲み取りにくかったので、何分前後という程度の指定が欲しかった

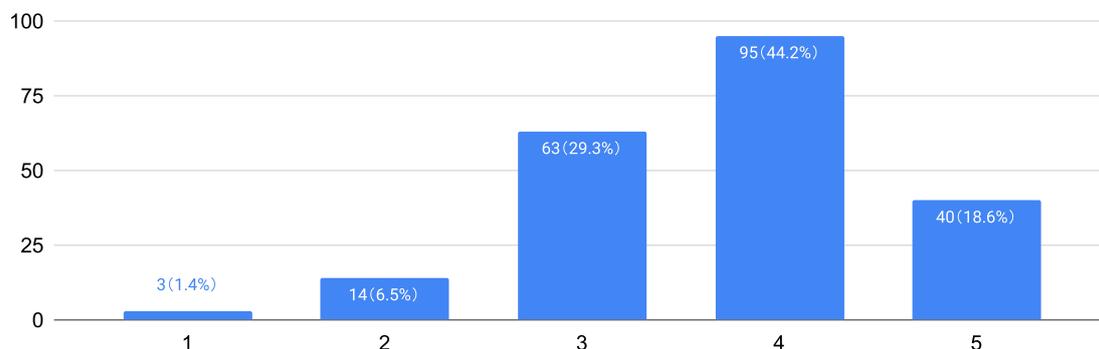
11. zoom を使用した学生優秀発表賞のポスター審査セッションに参加された方にお聞きします。(複数選択可)



その他

- 現状では口頭発表とほぼ同様なので、口頭発表に集約すべきだと思う。
- (ポスター審査に限らず)オンライン発表では、原稿を準備して主にそれを読む、という対応がしやすいので、通常発表のような差異はつきにくいのではないか。
- 質疑応答時間が長かった
- 短い時間にまとめが聞けて良かった
- 質問が無ければ座長が質問するという流れと同じく、質問が出なければ審査員が質問するという措置が必要だったと感じます。
- とても良い試みだったと思います。リアルの学会になってもあって良いと思います。

12. 2020 年度秋季大会の全体的な満足度をお答えください。



13. 2020 年度秋季大会に関してご意見をお聞かせください。

- 従来の学会と比較して参加しやすい反面、得られる成果が乏しく感じます。
- オンライン大会だったので参加できてよかった。
- 大きなトラブルもなく、順調に進行して大変良かったと思う。関係者の方々の尽力に敬意を表します。
- 本大会は参加して大変有益でした。大変なご尽力に感謝申し上げます。
- 無事にオンライン秋季大会を開催することができ、大会・企画委員会の皆様のご尽力に謹んで感謝申し上げます。
- せっかくの沖縄開催が断念となるなか、十分なクオリティの学会を準備いただきありがとうございます。
- 今回は議論の時間が少なくなってしまったという印象を受けました。特に、今回新しく地震学会に参加された学生さんにとってはなかなか学会員の顔が見えず、ハードルが高かったのではないかと想像します。ただ、それを差し引いても、学会自体はとても充実していたように思いますので、これはオンライン学会の開催に向けてご尽力された方々のおかげだと感謝しております。ありがとうございました。
- 大変な時期に大会運営を行っていただきました、LOC の皆様、大会企画委員会の皆様に深く感謝申し上げます。
- まずは本大会の企画にあたった皆様に感謝申し上げます。このようなイレギュラーな状況下においても、つつがなく秋季大会が開催できたのは、皆様のご尽力のおかげだと思います。誠にありがとうございました。

他方で、秋季大会がこれだけよいかという印象は感じました。人が集まって、その交流から生まれるものも含めて秋季大会であり、その分がどうしてもオンライン開催では抜け落ちてしまいます。2020 年度は仕方なかった面がありますが、この状況がずっと続くのは好ましくないと考えます。

spatial chat の試みはとても面白かったです。オンラインで行う場合はそのような交流の場をいかにうまく作るのかが重要だと思います。

- Zoom の接続(テスト含)等、担当者のサポートのおかげでスムーズでした。
- 今後も正直もうオンラインでも良いのではないかと考えた。
- 様々な制約がある中で、比較的円滑に進行したのではないかと思います。大会企画委員会の皆さんに感謝します。
- 仕事の合間に覗きに行けるのがオンラインのメリットだと思いました
- spatial chat の宣伝をしっかりと冒頭(開会あいさつなど)で行うとよりよかったのではないのでしょうか？議論・展示の場として。

- 大変有意義でした。運営の方々に感謝します。
- 参加費・投稿料が高額である。ただし、その分、創文出版やアトラスの活躍がめだち、良い仕事をしていた。
- 限られた時間と資源の中で、地震学会らしさが感じられるいい学会でした。大会・企画委員の皆様、ありがとうございました。
- 快適に発表および聴講をさせてもらった。オンライン開催なので発表会場からの移動時間がなく時間的に連続する異なる会場での発表も逃すことなく聴講できたことはオンライン開催の利点として挙げられると思う。
- ポスターのフォーマットを揃える必要がある。複数枚のポスターは容量制限内であっても、表示に時間がかかり非常にみづからった。
- 大会・企画委員会、LOC の皆さん、大変だったと思います。お疲れさまでした。
- 世の中のいわゆる働き改革とは逆行するため、休日を含む開催はやめてもらいたい。
- 通常の対面形式になるべく近い形で行えた点は良かったと思う。口頭発表についてもコメント欄を活用するなど、より議論が活発に行えればさらに良かった。
- 初めてのオンライン開催という点で手こずった部分はあったが、大きなトラブルなく終わったのは良かったと思います。テンポの良い会話や懇親会等、リアル学会でないと得られないものもあるかもしれませんが、学生としてはオンライン学会のほうが、変に緊張することなく参加できました。物理的に発表が見づらい・聞きづらいという問題が解消されるので、オンライン学会もよいと感じました。準備や事務を担当されたすべての皆様に敬意を表したいと思います。
- 口頭発表の形態がほぼ維持されたのが良かった。
- 発表、聴講については、準備が大変入念だったおかげで、大変良かったと思います。ただ、結果論ですが、展示はやめたほうが良かったのではないかと思います。展示者側にもどのような形態になるか事前に十分な情報が来ていなかったですし、どれだけ展示の成果があったのか疑問です。
- 事前接続テストの期間が長かったのは委員の皆様のご尽力によるものだと思いますが当日までに安心感を持てたことがよかったです
- 準備お疲れさまでした。スムーズに進行したと思います。ポスターにオプションで音声が付けられるとわかりやすくいいと思いました。
- コロナ禍の中、初めてのオンライン秋季大会を円滑に実施いただき、大会企画委員の皆様をはじめ関係者の皆様は大変ご苦労様でした。授賞式も演出がすばらしかった。
- 口頭発表はオンラインでできてしまうという実証実験だったと思います。ポスター発表は改善の余地があると思います。

- 不参加のため事情を承知していない。
- 団体展示はやはり対面でないと気軽にお客様とお話することができないところが残念でした。そんな中、いろいろなツールをご用意、ご対応いただきありがとうございました。
#2020年に限りませんが、スケジュールが重なった発表が見れる仕組みがあるととてもありがたいです。
- 特になし
- 当初の沖縄開催予定を考えるととても満足できるものではなかったが、やむなしといったところ。
- 緊急時としての実施体制としては、できるだけ単純にした形でトラブルが少なく良かった
- 担当の方はお疲れ様でした
- Web開催は便利で良いですが、沖縄だったので現地開催して欲しかったと切に思います。
- 突然の変更により大会委員の皆様のご苦労は大きかったと思いますが、開催していただきありがとうございました。オンラインによる学会開催には校費が削減され旅費の捻出が難しくなってくる中でメリットもあるという気がしました。
- コロナ禍の中の緊急避難的なWEB開催としては満足いくものであり、関係者の努力に感謝します。同時に、対面意思疎通の相互性がほぼ完全に失われる(これまで無意識であった)デメリットも強く感じた。できる限り早い従来方式の学会開催を望みます。学会で肉体が移動するという行為は、対面意思疎通を超えるメタ効果、例えば、思いもかけない発想等、科学的に定量化できない効果があると信じています。オンライン開催のみの学会という新しい時代に移行するのであれば失うものは大であると思っております。
- 参加費の額を考えると満足です。大会企画委員の皆様感謝します。
- 特に問題なく参加できました。コミュニケーションを取りづらいという問題点はあるものの、現状ではこれ以上の方法はないと思われまます。
- 2021年もこの方式を準用するか併用しての開催を希望する。
- 大変ななか準備ありがとうございました。
- コロナ禍の現在ではよく運営して頂けたと思う。ただ、会場(外)で行う与太話も学会に参加する重要な要素なので、その点はリアルの会場ではないと難しいので、残念ではある。
- スケジュール登録した講演を時系列順に表示する機能が欲しかった。現状ではセッションごとに括られて表示されるので、例えば同時間帯の複数セッションの全講演をスケジュール登録すると、個別の講演が時系列順に隣接せず、「A会場の9:00-9:15の講演、A会場の9:15-9:30の講演…B会場の9:00-9:15の公演、B会場の9:15-9:30の講演…」という順になる。一旦複数の講演をまとめてスケジュール登録しておいて、後からどれを聞か選ぶ際に

把握しづらかったので、「A 会場の 9:00-9:15 の講演、B 会場の 9:00-9:15 の公演…A 会場の 9:15-9:30 の講演、B 会場の 9:15-9:30 の講演…」という表示もできれば便利に思う

- オンラインという形式でしたが、最新の研究発表を視聴するという面ではとても満足できるものでした。そのため、オンライン大会として見た場合の満足度は5にいたしました。今後、新型コロナウイルスの感染が終息したのちも、対面形式とオンライン形式を併用することを積極的に考えてよいと思います。一方で、発表の合間や日程終了後のパーソナルなやり取りが難しくなっていることがオンライン大会の課題であるとも思います(しかし、これは無いものねだりかもしれません)。
- 想像以上にオンラインの学会も良いものという印象を受けましたが、オンラインでは、雑談しにくいことが一番のデメリットと感じました。口頭発表ではオンラインのメリットを大きく感じましたが、ポスター発表ではオンラインのメリットをそれほど強く感じませんでした。
- 今年は、特に沖縄で行われることを期待していたので、発表には差し障りがなくても、やはり学会の大会としての雰囲気がないことが残念でした。
- 仕方がない状況ではあるけどやはり対面が望ましい。事務局等の負担を考えると完全オンラインでも良いと思います。ハイブリッドにする必要はないかと思います。
- 発表者自身を含めて誰でも匿名でつけられる、予稿サイトの「いいね」機能は不要と強く感じた。具体例は挙げないが、内容の妥当性に疑問符がつく発表に複数の「いいね」がついていたり、素晴らしい内容の発表でもついていなかったりした。プロの研究者には関係ないとしても、学生や一般参加者が発表内容を「いいね」の数などによって印象付けられてしまうとすれば、有害にも思えた。
- おおむね満足です。初めてで運営側は大変だったと思います。
ポスター発表に関しては、発表する側の経験の蓄積ができたので、つぎにもし同じ発表形態になったときにもっと良い発表ができそうです。
- spatial chatなどで、懇親会までいかなくとも、集まれる場所があればよかったと思う。
- 初めての Zoom 大会としては進行がスムーズにいったよかったです。
- 対面学会のように、普段会えない研究者たちとの交流がほぼできないことは不満ではあるが、オンライン学会の実施形態としては、今回の秋季大会は大変よくオーガナイズされていたと思います。
- 初めての試みでやむを得ないとは言え、詳細な情報が直前まで得られなかった
- 慣れない形式の中、誠にありがとうございました。
- 誠に疲れ様でした。ありがとうございました。
- 複数のセッションを行き来しやすく、ネットで行うメリットもあると思いました。人との交流、ポスターセッションの充実、などをどう確保するかが今後の課題でしょうか。

- オンライン開催も、現地開催もそれぞれに良いところがあるのを感じた。今後も、うまく利用していけると良いと思う。
- 大きな問題はなく開催されたと感じています。大会・企画委員の皆様へ感謝します。
- 口頭発表を Youtube などに上げて、後からも視聴できるようになるとよい。(ただし、公開期間は短めに設定)
- 十分な準備をされたことがうかがわれた。
- 今後もオンラインがよい。
- せっかくのインターネット開催なので、会場を少なく日程を多くして、興味がなる発表が重ならないようにしてほしい。
- 初オンラインにしてはトラブルが少なかった。運営ご苦労様でした。
- 土曜に重なっていたためその日はほとんど参加できなかったのが残念
- オンライン故の利点も欠点もあるので、今後、改善の検討は必要と思いますが、初の試みとしてはいろいろ苦労され準備されていたと思います。
- 初めての Web 開催でしたが、大きなトラブルもなくスムーズな学会だったと思います。
- 講演を聞き内容を理解する、という観点ではオンライン開催はメリットも大きいように思いました。
- 概ね快適で、オンラインならではの便利さ、不便さも実感できました。大会・企画委員会の皆様は、さぞ大変だったことと思います。ありがとうございました。たまたま会った人と話が弾んで、というような、リアル会場ではふつうにあるような偶然性の産物がないのは残念ですが、学事の都合や家庭の事情などで、遠隔地の学会に参加しづらい人も、オンライン大会ならば参加しやすいのではないかともしました。上にも書いたように、会場のキャバを気にしなくてよいので、プログラム編成上も自由度が上がったのではないのでしょうか。
- 開催にご尽力された皆様へ感謝いたします。
口頭発表は、オンラインの利点が活かされていたと思います。ポスター発表は、基本的に言葉(音声)での説明がないので、さらに工夫が必要に思いました。発表者によっては、個人的に Zoom などを立ち上げてそちらで議論されているかたもお見受けしました。そのような取組を大会でサポートするのもよいと思いました。
- このような状況の中、実施していただきありがとうございました。沖縄にはいつか行きたいです。
- オンラインを継続するならば少なくともポスター発表の形式もしくは質疑方法を変更する必要性を感じた。
- 家庭の事情で、現地開催であれば参加できない予定だったが、オンライン開催となり、参加することができ、有難かった。

- 行き帰りの時間やコストがかからず、オンライン参加である利便性などがメリットとしてあった。一方で、リアルにお会いして質問や発表以外の最近動向等をお聞きすることができない点などデメリットも多かったと考えます。
- コメント機能のような会場では実現できないことをオンラインではできる良さもあったと思う。
- そもそも、オンライン大会なのに、出来るだけ例年と同じように行うというコンセプトが、少し違うのではないかと思う。口頭発表は良かったが、ポスター発表は、passive に聞けて、質問もしやすいような、さまざまな改善が必要である。特に、特定の発表を見に行かなくても、さまざまな発表を聞けるのが、ポスター発表に限らず、学会の開催意義である。例えば、spatial chat をセッションごとに設け、その中に4件ずつ部屋を用意して四隅で発表すれば、ポスター間の移動もでき、熱い議論もできるだろう。

なお、各会員に発行されたパスワードは脆弱すぎである。

- 特になし
- 初オンライン開催としてはほぼ満点かと。
- 準備、運営とも大変だったと思います。お疲れさまでした。
- 個人的には久々に発表ができ満足しています。
- 発表しない学生にとっては楽しくない体験だったようです。ネットワーキングの機会を確保するなどがよいかと思います。
- 非常に満足度が高かったです。大会企画委員会をはじめとした運営にご尽力いただいた皆様に心より感謝いたします。
- オンライン形式の学会として概ね成功だったと思う。
- 意見というよりは感想ですが、オンラインの大会運営で大変な中、学生優秀発表賞の審査セッションを用意していただきありがとうございました。審査セッションのおかげでたくさんの方と自分の研究を共有できたように思います。
- 非会員料金を下げてもよかったかもしれない
- 大変立派な大会にさせていただいて感謝しています。特に事前接続の練習時間がたくさんあったことはよいと思いました。
- 沖縄らしさがなかった。
- いつもの学会をオンラインで実現するという方針がとても分かりやすくトラブル少なかったように思います。学生審査については普段と異なるものだったので、少し不安がありました。結果的に良かったと思います。懇親会がないのが残念でした。(もう少し spatial chat 自体の浸透も必要ですが) spatial chat で自由議論の場を設けていても良かったと思います。
- 想像していたよりも、オンラインでスムーズに参加できた

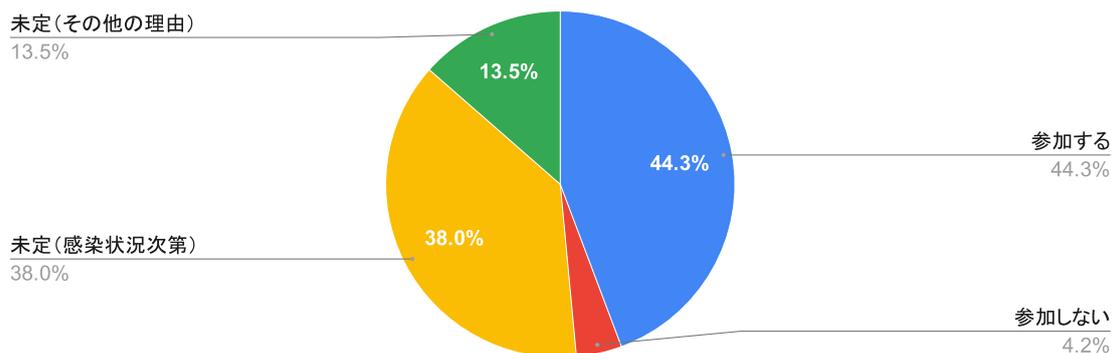
- 10月末の状況を考えると結果的には現地開催できたようにも思いますが、半年前にはそれを予測できなかったため致し方ありませんね。関係者の皆様のご尽力に感謝しています。
- 概ね満足だが、ポスターの提出締切が想像以上に早く感じた
- 大変よかったですと思います。関係の皆様のご努力に感謝いたします。
- オンラインでの口頭発表が良かった。
- 大会終了後に参加費と投稿費の領収書を出そうとしたら、支払いサイトが閉じていて出せなかった。事前に「このサイトはいつまで有効」という表示があると良い。
- 発表がとても聞きやすく、進行もスムーズでした。実行委員会の方々に感謝します。
- 大会企画委員の皆様の努力に感謝します。地震学会全体でツイッターをもっと活用してより広い範囲に学会大会のことや活動のことを知ってもらう時期なのではないかと思います。非会員の参加者が多くなるのが会員増にもつながるのではないのでしょうか(参加費はもう少し安くしたいですね)。
- 発表者は常に聴衆の反応があった方が良いので、座長はずっとカメラをオンにしておいたら良いと思う。
- 事務局のご尽力に敬意を表します。とはいえ沖縄には行きたかったですね。
- オンライン開催が決まってから時間があまりなかったことから、準備不足があったと思うところがあるが、十分許容範囲だったのではないかと。よくやったと思う。
- コロナ下で大変な中、円滑な運営に心より感謝申し上げます。
- 現況下ではオンライン開催はやむを得なかったかと思うが、特にポスターに関しては、現地開催ができた方がより議論が進むと思う。
- 全体的によく運用されていたと思います。関係の皆様のご努力に、敬意を表します。
- いずれまた沖縄で地震学会をやっていただけると助かります。
- 遠隔での参加のオプションがあるとよい。
- 初の試みにも関わらず素晴らしい会をご用意いただきありがとうございました。関係の皆様のご尽力に感謝します。
- オンライン開催の準備運営ありがとうございました。研究発表会としては満足です。一方、オフラインの時は、発表が終わった後の雑談とかそういったところで情報交換をしていたのだなと痛感しました。
- 春の合同学会に比べて、はるかにスムーズで使いやすかったです
- 時間が効率的に使えたことがよかった。
- 従来のスタイルをそのままwebに落とし込んだだけのように見受けられ、日程やオンデマンド視聴など、webの良さをもっと活用できれば、より素晴らしい大会になるのではないかと思います

います。ライブ配信やオンデマンド視聴は、オフライン大会に戻っても必要とされる機能ではないかと思います。

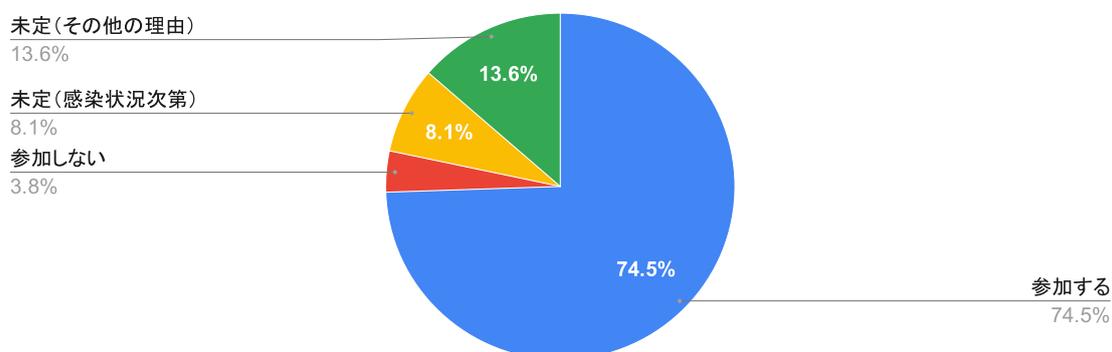
- 大変な中、ご準備ご苦労様でした。満足度はとても高かったです。spatial chat を使って学会員との交流ができ、そちらも大変満足しました。オンライン懇親会が spatial chat であってもいいかもしれないとは思いましたが、今回は初回ですし特になくて良かったです。私はいつもは子連れで学会参加者をしているのですが、託児室設置などがいつも大変ありがたい反面、子供と出張して学会参加ですとアクシデントも多く、発表を集中して聴けない場合もあります。自宅に近い職場から参加できるオンライン学会の方が、そのような問題は特に起きないので正直発表にいつもよりも集中することができました。一方で新しい研究者との交流ができないことがデメリットだったと思います。アフターコロナでもオンサイトとオンラインを両立させていく方が、学会員の指示も得られるのではないかと思います。JpGU2021 のようにオンサイトはポスター発表として、オンラインでは口頭発表会としてみるのも1つの手だと思います。
- 準備や運営にご尽力いただきありがとうございました。特に滞りなく視聴できたので満足しています。
- ポスター発表がほとんど機能していないように感じた。SpatialChat 前提にするなどしたほうがいいのでは。口頭発表は問題なし。
- オンライン開催となり大会企画委員会の負担が大きかったのではないかと思います。
- リアルタイム開催にこだわらず、オンデマンド開催でもよいのではないかと思った(剽窃や著作権の対策が必要になるだろうが)。ポスターの様式はほぼ自由だったが、画像1枚よりもスライド形式の方が見やすいと思う。
- 満足度は高かった。
- オンラインならば、普段のオンラインセミナーとの差別化が難しく、参加する意義が感じられない。
- 人の交流が多くする工夫がよいと思う。いいアイデアはないのですが…
- ZOOM での発表と、操作に慣れてない事で、ホローしにくさを感じています。

2021 年度秋季大会は、仙台で 10 月に開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、開催形態を変更する可能性があります。現時点での参加意思を教えてください。

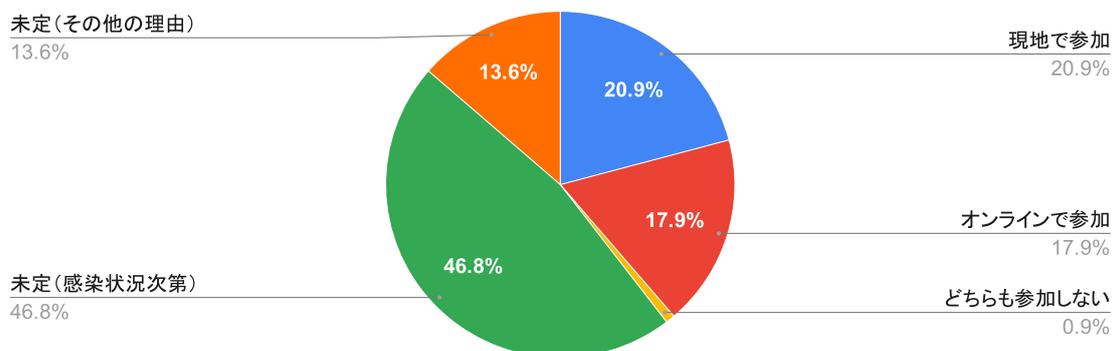
14. 通常の現地開催となった場合



15. 今年度と同様のオンライン大会となった場合



16. 現地とオンラインの併用となった場合



17. 2021 年度秋季大会の開催形態に関してご意見をお聞かせください。

- ポスターのコアタイムは現地開催でコメント機能はコアタイム外に実施。口頭発表はオンラインと併用。
- オンラインで参加できる方式を希望します(実会場とのハイブリッドでも)。
- 研究費や家庭の事情で現地だと参加しにくい人もいると思うので、併催を積極的に検討していただきたい。
- 新幹線や飛行機での感染とポスターホールでの密集がやばいだと思います。併用は最悪になるとは思います。
- 今後現地での大会が可能となったとしても、子供の養育、授業の担当など様々な事情で従来参加を諦めていた会員でも発表の機会を得ることができるので、オンライン方式の併用(ハイブリッド)は、地震学会の活性化や参加者の拡大にとっても大変有用だと思いますので、積極的にご検討をお願いいたします。
- まさに感染状況や医療体制次第かと思っています。オンラインだと他機関の人とすれ違った際に話をするといった機会がなく、それが現地開催の強みだと思います。spatial chat のようなツールでも、これはうまくは実現できないでしょう。
- 現地参加ならば、出張として業務で認められる可能性があるが、オンラインでは社内からの参加は、しにくいので参加できない。
- オンラインやむなしくもかもしれませんが、進化したものになりたいですね。
- 願望としては現地開催
- 今回の学会で休み時間や昼食時間が議論をする上で大切なことをあらためて感じました。もし感染状況が許されるようでしたら現地開催が良いように思います。その一方で、オンライン学会のポテンシャルもわかりましたので、現地に行けない方々の参加方法としてとても良いように思います。
- 来年も大変な時期になるかもしれませんが、東北地震から 10 年という節目の年でもありますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- 可能であれば現地での開催をお願いしたい。オンラインは併用・補完的な扱い。
- 現地とオンラインの併用開催となると、準備が煩雑になり、トラブルが生じやすくなると思う。現地開催か、オンラインでの開催か、どちらかに絞るべき。
- 状況が許せば現地開催が望ましい。他方で発表形態としてオンラインでの発表を残すかどうかは検討する価値があると思う。
- 特になし
- 感染状況次第ですが、可能であれば現地開催が望ましいと思います。

- 社会の仕組みがそもそもオンラインで完結することを前提として組み立てられていないので、オンラインで何とかしようというのが土台無理です。普段通りやりましょう。
- できるだけ現地開催できると良いと思います
- オンラインならではの、スライドの見やすさ、音声の聞きやすさもあるので、ハイブリッドなものにするのがよいのではないのでしょうか。
- 身近に地震研究者がいない環境で働いています。オフィシャルではない部分での情報交換が貴重なので、現地開催できることを祈っています。数年後にはもう一度沖縄開催を！
- キャンセルポリシーがはっきりしていればどのような形態でも良い。
- 震災後 10 年ということもあり、フルオンラインではなく何か少しでも仙台で行えることがあれば良いと思います。
- リアルで開催することを急ぐ必要はないと思います。学会を地方で行うことによる経済効果もあるかと思いますが、小規模分散旅行が推奨されている以上、数百名規模で集会を行うのは、適切ではないと思います。ディスタンス確保や手指消毒等の感染症対策を行うには、お金と人が例年よりも余計に必要となると思われ、それは参加費の値上げという形で跳ね返ってきます。感染症の心配をしつつ、お金も普段より多く払いつつ現地で行うよりは、感染症の心配のないオンラインでの開催のほうが、良いと思います。無論、感染症の心配が全くない状況になっていけば、現地で開催するのがよいと思います。
- 現地・オンラインそれぞれにメリット・デメリットがある。併用開催で参加者に選んでもらうのがよいかと思う。
- ポスターを多めにしてコアタイムを分散するのはどうか
- 現実的にはオンラインを想定するのが良いのではないか。
- 現地とオンラインの併用はどちらにも学会対応者を貼り付けなければならず、それぞれ費用もそれぞれかかるので、運営者の負担が増加し、費用膨張のため参加登録料が跳ね上がるのではと心配します。
- オンラインは勤務地内から参加しないといけないので、結局仕事をせざるを得ず、発表等が聞けない。その結果、必然的に不参加となる。
- 特になし。
- 感染状況次第と思いますが、現時点では安全サイドでご検討いただくのがよろしいかと思えます。
- 特になし
- 特定のテーマの研究集会は今後も遠隔でもかなり代用できるが、年に1度の秋季大会くらいはできるだけ顔を突き合わせて他分野の人とも交流できる機会なので(遠隔だと自分に関

係する分野だけの交流になりがちでどんどん狭くなる)、事情が許せば現地開催にしてほしい。

- オンライン併用を希望します
- 311 から 10 年の節目であり、できるだけ多くの研究者が参加する大会になればいいと思います。
- 比較的大規模な研究所であれば、研究所のサテライト会場にて講演上映して、研究所内メンバーで擬似的な学会参加効果を期待できるのではないかと夢想した
- ハイブリッドにするメリットがよくわからないので議論してください
- 現地開催の有無に関わらず、少なくともオンラインの形態は準備する必要があると思います。
- オンライン開催で十分と考える。
- 現地開催が望ましいが、オンライン(または併用)での開催もやむを得ないと思う。
- 現地にはできればいきたい
- 出来れば現地開催を希望したいが、感染リスクを負ってまで開催すべきではない
- オンライン開催は学生にとってのメリットが大きい。興味を持っている院生・学部生全員分の旅費を工面したり、期間中の講義を全て欠席させるのは難しいが、オンラインならば気軽に誘導できる。あるいは今後、もし自分自身でも研究旅費が枯渇したり、講義担当が増え出張が難しくなることがあれば、その際は助かる。現地開催とオンラインの融合ではコスト増が懸念されるかもしれないが、そのような需要もあるということはお伝えしたい。
- [13]番にも述べましたが、新型コロナウイルスの感染が終息していても、オンライン形式を併用してもよいと考えます(担当授業や観測・業務などのために現地参加できない人も参加できるようになる、視聴がクリアである、などの理由)。感染が終息していない場合には、オンライン形式を主体として、状況によっては対面形式も実施することになると思います。学術講演会は大人数が一つの会場に集まって議論することになるので、たとえパーソナルな旅行(GoToトラベル)が奨励されていても、それとは別ものだと考える必要があると思います。感染状況とやり方によっては対面形式も可能であろうとは思いますが、我々は感染症の専門家ではないので、あまり無理はしない方がよいと思います。
- 会場で集まる形式もオンラインもそれぞれ一長一短あると感じます。オンラインでは資料を確認しながら質疑応答に参加できる点、会場集合では気楽に雑談ができ、雑談で日ごろ聞けない話ができたり、新たなアイデアを生み出したりすることができる、というメリットがあると感じました。今後、両者を適宜組み合わせたり、春秋とか隔年でとか両方式を取り交ぜて開催することを検討していただければありがたいと感じました。
- 少なくとも現地で何らかのイベントが出来ることを期待します。

- 大変だとは思いますが、感染拡大の状況について、予測が不可能である以上（地震予知と同じですね）、いろいろな選択肢を考えておく必要があるかと思います。
- 人とコミュニケーションできる場がもっとほしい
- 現地開催できることを期待しますが、現時点では、なんとも言えません。
- 今年度、オンラインでノウハウを得たのだから、来年も今年と同じスタイルが良いと思う。オンラインと現地の併用にすると、また一からやり直しになるのではないか（ポストコロナのニューノーマルとして将来的に併用を継続する構想があるのであれば別だが）
- オンラインのメリットもあるので、多様かつ柔軟な開催形態を検討する良い機会かも知れません。
- 現地開催と併用されると利便性は良いと思う。
- なし
- オンライン開催がよい。
- オンライン開催が可能である以上、現地開催の意義が無くなったのではないか。直接会って議論する意義はあるが、それによって議論が深まる保証はない。メールで十分事足りる。
- 感染状況によりオンラインの方がよい
- 先行きが不透明でご苦労があると思いますが、情報共有を密にすれば会員の理解も得られると思います。大会・企画委員会とLOCの皆様に期待しております。
- 状況次第
- コロナ禍が終息したとしても、現地とオンラインを選択できるようにしてほしい。遠隔地や仕事、家庭の事情等を持つ方が参加しやすくするため。結果的に現地参加者は少なくなると思うが、全体の参加人数は増えるだろうから、採算は十分とれるのではないか。オンラインのみ参加の方は参加料を割り引いても良い。
- やはり新型コロナ流行の状況次第ですが、オンライン故の利点も欠点もあるので、今後、改善の検討は必要と思います。よろしくお願いします。
- コロナの感染拡大状況に応じて、開催形態を決めて頂ければと思います。
- 講演を聞き内容を理解する、という観点ではオンライン開催はメリットも大きいように思いました。しかし、学会では休憩時間での参加者同士の情報交換や発表者以外の受け止め方を知るなど、講演以外のコミュニケーションも重要であると思います。今後も基本は集合形式の学会を開催してほしい。現地に集合しつつ、オンラインも併用して各自の端末で資料を確認できる（オンライン参加のみも可）、という形式ができればどちらのメリットも生かせるのでは。
- 発表以外においても情報交換の場であったりと有意な場であるため、感染状況にも依るが、現地開催があることを望む

- 所属組織の方針もあるので、現時点では、現地で参加できるかどうかは判断できません。それとは別に、オンラインならではの利点もありますので、コロナが収まった後でも、リアルを基本に、オンラインでも参加できるのが理想です。勝手に言ってすみません。
- 16. の「併用」の具体的な方策が分かりません。例えば、現地で参加している人が、オンラインの発表(?)に参加するというケースも想定されているのでしょうか。もしくは、現地で実施している発表をオンラインでも中継する、といった形態を想定されているのでしょうか。
- オンライン開催の場合、口頭発表もポスター発表と同様に発表資料を事前にアップして、いつでも誰でも閲覧でき、コメントできるようにしてほしいです。
- 個人的にはオンラインでの開催の方が参加しやすいが、やはり、現地開催の方がコミュニケーションが取れ、特に若い方たちにはその方が有益なのではないかと思います。
- オンラインを含めた形でやるなら、出来るだけ例年通りやると言うコンセプトではなく、抜本的な改革(特にポスター)が必要である。特定の発表を見に行かなくても、さまざまな発表を聞けるのが、学会の開催意義である。ポスター発表は、例えば spatial chat を活用するなどして、passive に聞けて質問もしやすいよう、さまざまな改善が必要である。
- 感染状況に応じて、出来るだけ安全な方法で開催してください。
- できるだけ現地での開催(オンライン併用可)で実施してほしい。
- 特になし
- 研究発表以外に、廊下やポスター会場などでの情報交換が重要なため、現地開催が良い
- 会場数を4にするかどうかは(オンラインの場合は特に)要検討かと。
- 可能であれば、対面ないしは Hybrid が良い
- やはり例年のような形式で開催出来たらと思います。
- 土日ははずす。有名な地震学者が積極的にポスターに回って欲しい(ポスター発表の価値をあげるため)
- 東北地震 10 周年という大会で社会からの注目度も高いことが予想されます。少なくとも一般公開セミナーはオンラインも併用した形が良いかもしれません。
- 現地開催ができるならそれに越したことはないが、現地開催かオンライン開催かの選択の判断が難しい事態が予想される。大会企画関係者に過大な負担が生じない範囲で適宜判断いただければと思う。
- 現地での開催の方がいろんな人との交流や雑談がしやすい印象ですが、オンラインもいつでもポスターを観れるなど良い点があるように思うので、運営は大変になりますが、併用してそれぞれの良いところを活用できると良いのではないかと思います。
- 学生の発表枠を確保することを優先してほしい。ベテランは自発的にポスターにしましょう。
- 会場外で交流できる場が用意できればうれしいです。

- 状況が許せば現地で
- 子育て族としてはオンライン参加は大変ありがたいです。今回のように終了時間が早めなのも大変ありがたいです。
- 私は今回は参加できなかったのですが、オンラインでの学会開催についての意見を述べさせていただきます。オンライン開催の場合、参加者はオフィスにいる訳ですが、その場合、多くの別の用事が入ってきます。もちろん学会中は他の用事を排除する努力をすれば良いのですが、大学のオフィスにいますと、他の用事が舞い込んできて、なかなか集中して発表を聞くことは難しいです。一方で、学生にとっては(特に遠地の大学の学生にとっては)、オンライン開催は良い環境なのかもしれません。
- もちろん感染状況次第ですが、個人的には現地開催でないとモチベーションが上がりません。現地開催を重視していただければと思います。
- 感染状況次第で判断する
- なし
- オンラインのポスターが非常に良いと思いました。
- ハイブリッドの場合は、オンラインでもきちんと参加できるように工夫してほしい。
- 口頭発表は問題ないが、ポスター発表については検討の価値あり。
- 現地とオンライン併用にすると、LOCの方々や準備する方々の負担が大幅に増加すると思います。現地開催、オンライン開催どちらかにしたほうがよいように思います。どういう開催形態をとったとしても、不満を感じる参加者をゼロにすることはできないと思いますので、LOCや大会企画委員会の方々には、ぜひ外野の声を気にしすぎずにご準備いただけますと幸いです。
- とても良い大会だったと思います。運営の皆さまのご尽力に感謝します。
- 現地開催内容をそのままオンラインに移すのではなく、オンラインの利点を活かした編成を考えてほしい。ハイブリッド方式は準備・進行が大変なので、結局はオンライン開催になると予想しています。
- 現地開催ならではの特別セッションがあるといいです。2011年の地震から10年以上経っての仙台ですので出遅れ感はあると思いますが東北の新聞やテレビで取り上げられるような企画を期待します。
- 外注したから仕方ないが、時計の表示とベルは工夫して欲しい。OBSを使ってバーチャルカメラで映し出すとか。
- コロナが収まることを祈るばかりです。
- 現地とオンラインの併用となった場合は、発表方法について十分検討する必要があると思う。

- 現地開催
- できれば現地開催の方がより議論が進むと思う。
- 口頭は Zoom でも対応できるが、ポスターは現地開催でないと厳しいのではないかと思います。
- 参加者や参加者に出張命令を出す職場としては「感染状況次第で参加形態を都度判断したい」と申し上げたいが、現地とオンラインの2本立てで準備を進める LOC の方々の業務量と心労を察すると、ある時期の感染状況でオンライン一本化を判断することもやむを得ない（むしろその方が良い）と考えます。
- 今回くらいスムーズに発表を見られるならば、オンラインのほうが良いと感じました
- 併用は、現地に行く必要性が難しいように思う。
- 安易にオンラインのみとするのではなく、併用の可能性も検討していただきたいです。web ならではのメリットもあるので、感染拡大状況に関わらず、今後は併用がスタンダードになるのではないのでしょうか。
- JpGU2021 のように、オンラインとオンサイト(ポスター&懇親会)のように分けるか、ハイブリッド開催を希望したい
- 感染状況の予測等が不明瞭、感染状況がやや増加傾向にある場合は、積極的にオンライン開催にしてくれると助かります。
- 皆が安心して参加できるようにお願いいたします。現地とオンラインの併用は運営側の大きな負担になるのではないかと心配いたします。
- 現地、オンライン、どちらにしても、早い段階で形態を決めてしまった方が良いと思います。
- 参加数にばらつきがでそうなので、現地とオンラインの併用とするよりは、オンライン開催のみにしてしまった方が良いと思う。
- 地震学会側の意見ではなく、仙台市の意向に従うべき
- オンラインでも参加できるほうが参加者は増えると思う
- 現地で参加したい人のみが参加するようにすればよい。
- 今の状況を見ると、オンラインでよいのでは？
- 大会前に長い接続テスト期間設定があり、操作の助言を戴け感謝しています。

※ このファイルでは、個人名等を含むコメントは削除して掲載しています。